

## 5. 高齢者

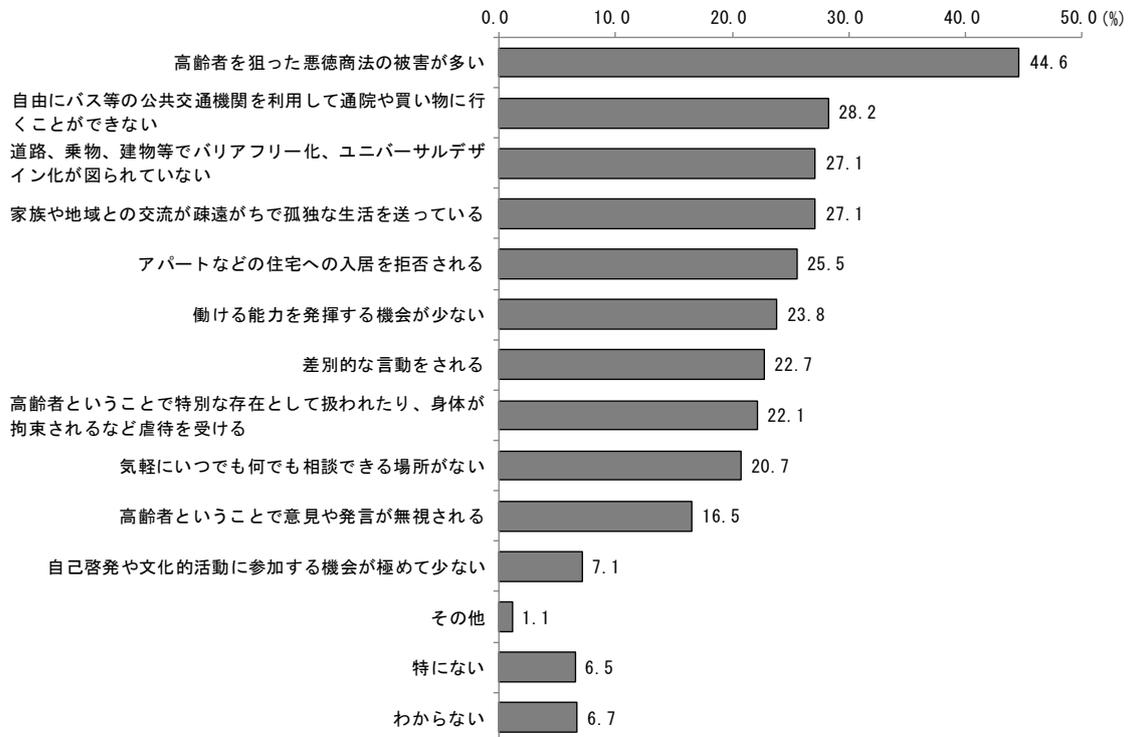
### (1) 高齢者に関する人権上の問題点

問5-1 高齢者に関する事柄で、人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。

【〇はいくつでも】

1. 差別的な言動をされる
2. 道路、乗物、建物等でバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化が図られていない
3. 自由にバス等の公共交通機関を利用して通院や買い物に行くことができない
4. アパートなどの住宅への入居を拒否される
5. 家族や地域との交流が疎遠がちで孤独な生活を送っている
6. 高齢者ということで特別な存在として扱われたり、身体が拘束されるなど虐待を受ける
7. 働ける能力を発揮する機会が少ない
8. 高齢者を狙った悪徳商法の被害が多い
9. 高齢者ということで意見や発言が無視される
10. 自己啓発や文化的活動に参加する機会が極めて少ない
11. 気軽にいつでも何でも相談できる場所がない
12. その他（具体的に ）
13. 特にない
14. わからない

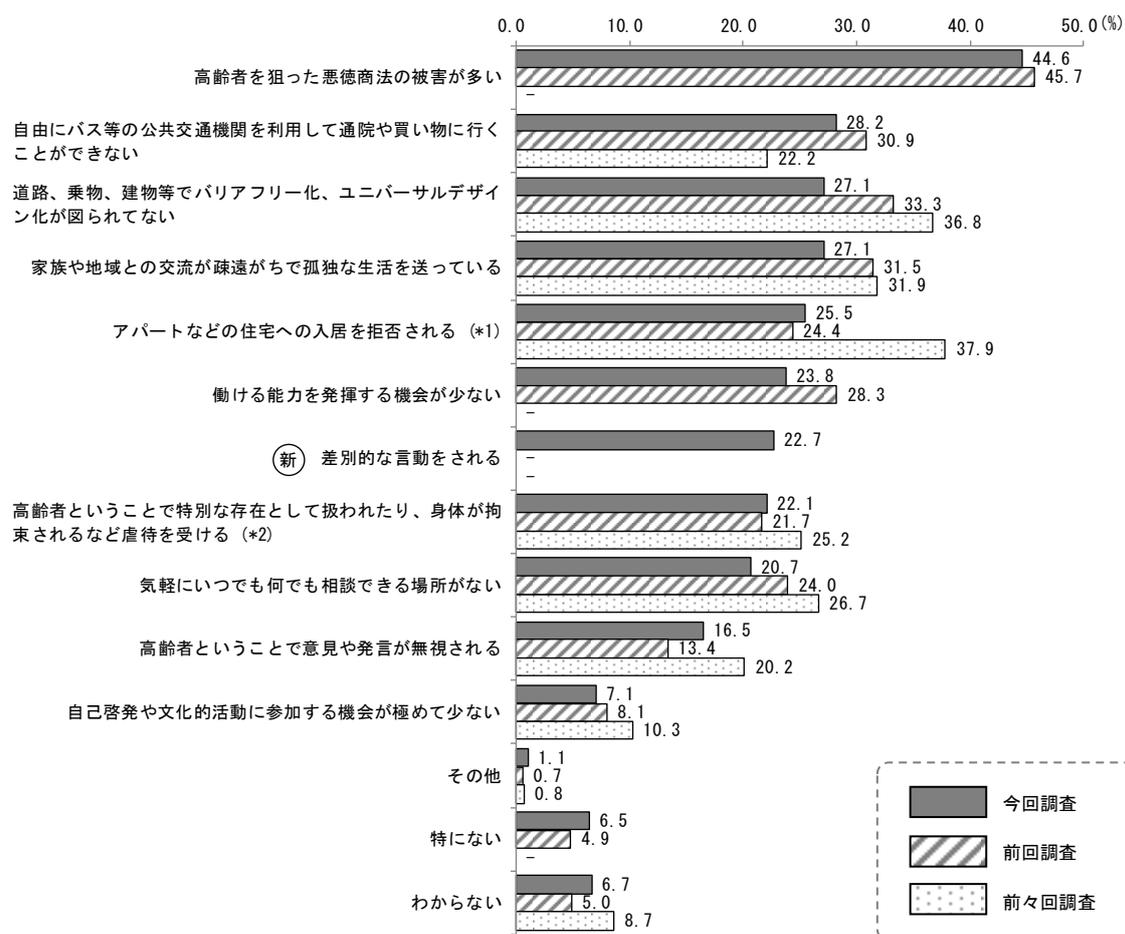
図5-1 高齢者に関する人権上の問題点（％）



高齢者に関する人権上の問題点については、「高齢者を狙った悪徳商法の被害が多い」の割合が44.6%で最も高く、次いで「自由にバス等の公共交通機関を利用して通院や買い物に行くことができない」が28.2%、「道路、乗物、建物等でバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化が図られていない」が27.1%となっている。

「その他」の記述としては、「相談場所があっても分からない、使いにくい」「経済的なサポートの圧縮」「老人用施設が高くて、どこにも入れない」「いろいろなセールスの電話で困っている」などがあつた。

図 5-2 高齢者に関する人権上の問題点 (%) [過去調査との比較]



\*1「アパートなどの住宅への入居を拒否される」は、前回調査「アパートなどの住宅への入居が高齢者というだけで制限される」、前々回調査「アパートなどの住宅への入居や就労が高齢者というだけで制限されること」との比較。

\*2「高齢者ということで特別な存在として扱われたり、身体が拘束されるなど虐待を受ける」は、前回・前々回調査「高齢者（特に認知症高齢者）ということで特別な存在として扱われたり、身体が拘束されるなど虐待を受ける」との比較。

\* 前々回調査の回答条件は【3つまで○】。

前回、前々回調査と比較すると、「道路、乗物、建物等でバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化が図られていない」や「家族や地域との交流が疎遠がちで孤独な生活を送っている」の割合は減少してきている。

また、前回調査より、「高齢者を狙った悪徳商法の被害が多い」や「自由にバス等の公共交通機関を利用して通院や買い物に行くことができない」は減少している。

表 5-3 高齢者に関する人権上の問題点【性別】 (%)

	男性			女性		
	今回調査	前回調査	前々回調査	今回調査	前回調査	前々回調査
高齢者を狙った悪徳商法の被害が多い	44.2	44.6	-	45.1	47.7	-
自由にバス等の公共交通機関を利用して通院や買い物に行くことができない	27.5	30.4	22.7	28.5	32.1	21.9
道路、乗物、建物等でバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化が図られていない	24.1	31.1	37.1	29.4	36.1	36.8
家族や地域との交流が疎遠がちで孤独な生活を送っている	26.6	30.9	34.0	27.6	32.8	31.0
アパートなどの住宅への入居を拒否される	21.4	22.6	37.0	29.0	26.4	39.4
働ける能力を発揮する機会が少ない	23.1	25.8	-	24.6	31.0	-
差別的な言動をされる	20.3	-	-	24.7	-	-
高齢者ということで特別な存在として扱われたり、身体が拘束されるなど虐待を受ける	20.3	19.8	23.2	23.5	23.6	27.0
気軽にいつでも何でも相談できる場所がない	19.3	23.1	25.5	21.6	24.9	27.0
高齢者ということで意見や発言が無視される	13.9	14.0	20.2	18.8	13.0	19.9
自己啓発や文化的活動に参加する機会が極めて少ない	7.5	6.2	11.3	6.9	9.7	9.6
その他	1.4	0.9	0.7	0.9	0.5	0.7
特にない	7.5	4.3	-	5.8	5.2	-
わからない	7.6	6.0	9.1	6.1	4.5	8.5

性別で見ると、男女ともに「高齢者を狙った悪徳商法の被害が多い」の割合が最も高くなっている。また、多くの選択肢で女性の割合が男性より高く、男性では「特にない」や「わからない」が高くなっている。

前回調査と比較すると、女性では「アパートなどの住宅への入居を拒否される」や「高齢者ということで意見や発言が無視される」が、男性では「高齢者ということで特別な存在として扱われたり、身体が拘束されるなど虐待を受ける」や「自己啓発や文化的活動に参加する機会が極めて少ない」の割合が増加している。

表 5-4 高齢者に関する人権上の問題点【年齢別】 (%)

	1 0 歳 代	2 0 歳 代	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 歳 代	7 0 歳 以 上
高齢者を狙った悪徳商法の被害が多い	47.1	46.1	49.7	47.9	51.6	42.7	36.9
自由にバス等の公共交通機関を利用して通院や買い物に行くことができない	23.5	17.4	30.8	32.6	31.3	28.5	24.7
道路、乗物、建物等でバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化が図られていない	29.4	28.7	31.4	30.3	29.5	27.1	20.7
家族や地域との交流が疎遠がちで孤独な生活を送っている	17.6	24.3	29.0	30.3	32.4	27.7	21.2
アパートなどの住宅への入居を拒否される	17.6	26.1	35.5	31.0	25.6	27.7	16.2
働ける能力を発揮する機会が少ない	23.5	22.6	24.3	32.2	28.8	24.6	14.6
差別的な言動をされる	29.4	24.3	27.2	23.4	24.6	20.7	19.9
高齢者ということで特別な存在として扱われたり、身体が拘束されるなど虐待を受ける	35.3	31.3	30.2	23.4	22.8	19.8	16.2
気軽にいつでも何でも相談できる場所がない	11.8	15.7	18.9	16.9	21.0	23.2	23.0
高齢者ということで意見や発言が無視される	23.5	22.6	24.3	16.9	16.7	14.0	13.4
自己啓発や文化的活動に参加する機会が極めて少ない	0.0	7.8	5.9	5.0	8.5	5.9	9.3
その他	0.0	2.6	0.6	1.9	1.1	0.6	1.0
特になし	0.0	0.9	3.6	3.4	4.3	6.1	13.9
わからない	17.6	4.3	8.3	5.0	4.6	6.4	9.1

年齢別で見ると、全ての年齢層で「高齢者を狙った悪徳商法の被害が多い」の割合が最も高くなっている。

また、10歳代の「高齢者ということで特別な存在として扱われたり、身体が拘束されるなど虐待を受ける」や30歳代の「アパートなどの住宅への入居を拒否される」が高い割合となっている。

表 5-5 高齢者に関する人権上の問題点【職業別】 (%)

	農 林 漁 業	サ ー ビ ス 業	商 工 業	勤 め	職 員 、 医 療 関 係 者 、 公 務 員 及 び	教 育 ・ 福 祉 、 公 務 員 及 び	そ の 他 業 、 自 由 職	家 事 専 業	生 徒 ・ 学 生	無 職
高齢者を狙った悪徳商法の被害が多い	33.0	49.6	45.5	52.9	43.8	40.8	52.5	41.1		
自由にバス等の公共交通機関を利用して通院や買い物に行くことができない	27.5	26.0	29.2	31.3	21.9	25.7	27.5	28.0		
道路、乗物、建物等でバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化が図られていない	14.7	22.8	25.9	35.9	23.4	27.4	37.5	26.7		
家族や地域との交流が疎遠がちで孤独な生活を送っている	18.3	19.7	30.7	36.3	26.6	22.3	30.0	24.4		
アパートなどの住宅への入居を拒否される	17.4	26.0	25.9	36.3	18.8	26.8	22.5	21.6		
働ける能力を発揮する機会が少ない	18.3	26.0	28.8	30.9	17.2	15.6	20.0	20.1		
差別的な言動をされる	16.5	21.3	19.8	30.9	20.3	23.5	27.5	22.4		
高齢者ということで特別な存在として扱われたり、身体が拘束されるなど虐待を受ける	15.6	15.0	19.1	32.8	25.0	24.6	32.5	20.1		
気軽にいつでも何でも相談できる場所がない	19.3	21.3	21.2	15.4	9.4	23.5	22.5	24.2		
高齢者ということで意見や発言が無視される	14.7	8.7	15.3	22.0	15.6	18.4	27.5	15.9		
自己啓発や文化的活動に参加する機会が極めて少ない	7.3	4.7	5.9	6.2	6.3	6.1	17.5	9.3		
その他	0.9	1.6	0.7	2.3	1.6	0.6	2.5	0.8		
特になし	12.8	5.5	5.7	1.5	10.9	7.3	0.0	9.3		
わからない	8.3	6.3	5.4	2.7	10.9	7.8	7.5	9.3		

職業別でみると、全ての職業で「高齢者を狙った悪徳商法の被害が多い」の割合が最も高くなっている。

また、『教育・福祉・医療関係者及び職員、公務員』の「道路、乗物、建物等でバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化が図られていない」「家族や地域との交流が疎遠がちで孤独な生活を送っている」「アパートなどの住宅への入居を拒否される」や『生徒・学生』の「道路、乗物、建物等でバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化が図られていない」が高い割合となっている。

【参考】全国調査（内閣府 人権擁護に関する世論調査）

<高齢者に関する人権問題>

問8 あなたは、高齢者に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。  
この中からいくつでもあげてください。（複数回答）

（上位6項目）

	平成29年10月	（参考）平成24年8月
・悪徳商法、特殊詐欺の被害が多いこと	55.0%	50.6%
・病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること	38.7%	30.0%
・経済的に自立が困難なこと	37.8%	40.6%
・働く能力を発揮する機会が少ないこと	32.7%	39.3%
・家庭内での看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること	29.5%	24.6%
・高齢者が邪魔者扱いされ、つまはじきにされること	29.2%	31.0%

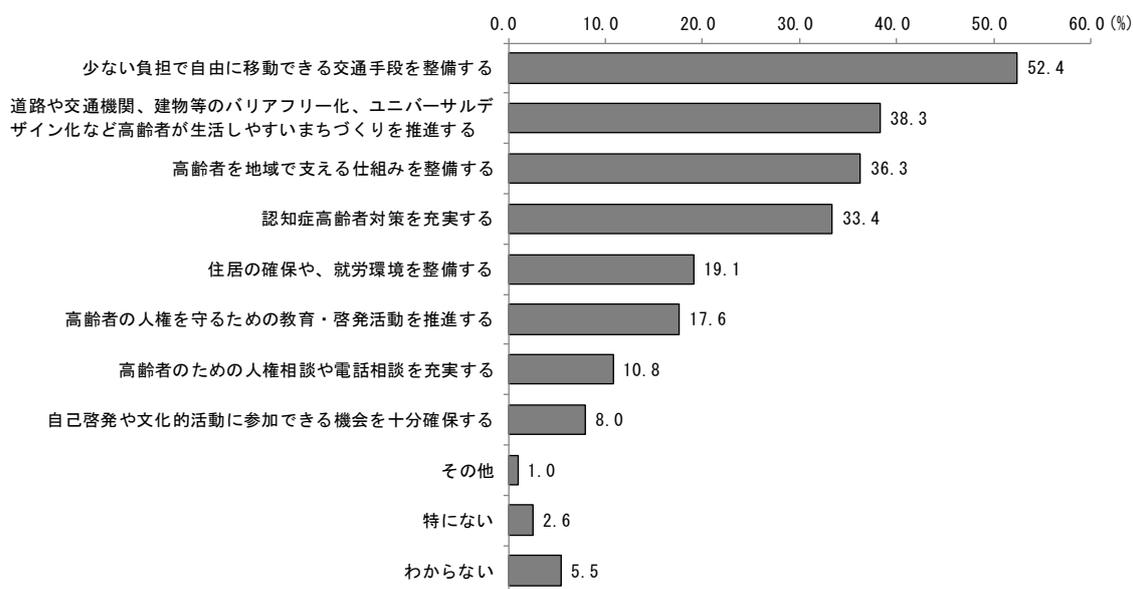
(2) 高齢者の人権を守るために必要なこと

問5-2 あなたは、高齢者の人権を守るために必要なことはどのようなことだと思いますか。

【〇は3つまで】

1. 高齢者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する
2. 道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など高齢者が生活しやすいまちづくりを推進する
3. 少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する
4. 住居の確保や、就労環境を整備する
5. 高齢者を地域で支える仕組みを整備する
6. 認知症高齢者対策を充実する
7. 自己啓発や文化的活動に参加できる機会を十分確保する
8. 高齢者のための人権相談や電話相談を充実する
9. その他（具体的に ）
10. 特にない
11. わからない

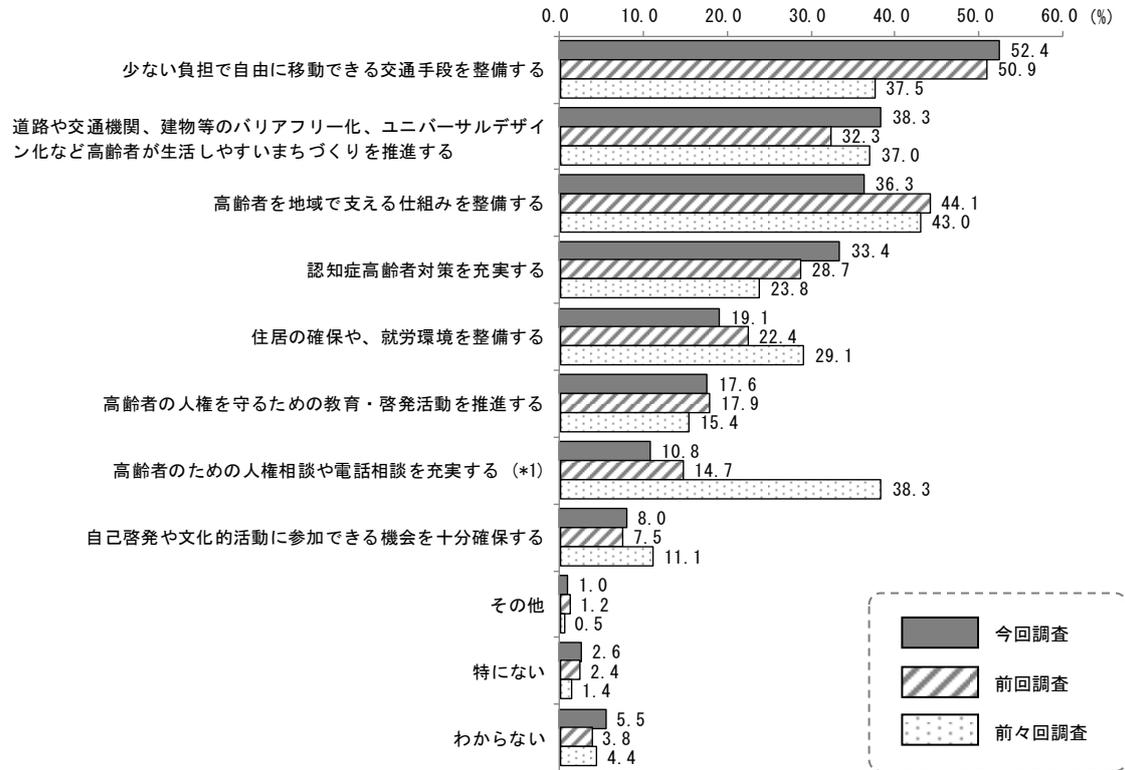
図 5-6 高齢者の人権を守るために必要なこと (%)



高齢者の人権を守るために必要なことについては、「少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する」の割合が 52.4%で最も高く、次いで「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など高齢者が生活しやすいまちづくりを推進する」が 38.3%、「高齢者を地域で支える仕組みを整備する」が 36.3%となっている。

「その他」の記述としては、「低所得者に対する経済的支援」「同居する家族のサポート」「高齢者が活躍できる場をつくる」「交通手段の充実」などがあつた。

図 5-7 高齢者の人権を守るために必要なこと (%) [過去調査との比較]



\*1 「高齢者のための人権相談や電話相談を充実する」は、前々回調査「気軽にいつでも何でも相談できる体制を整備する」との比較。

前回、前々回調査と比較して、「少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する」や「認知症高齢者対策を充実する」の割合は増加してきており、「住居の確保や、就労環境を整備する」や「高齢者のための人権相談や電話相談を充実する」は減少してきている。

また、前回調査より、「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など高齢者が生活しやすいまちづくりを推進する」の割合は増加し、「高齢者を地域で支える仕組みを整備する」は減少している。

表 5-8 高齢者の人権を守るために必要なこと【性別】 (%)

	男性			女性		
	今回調査	前回調査	前々回調査	今回調査	前回調査	前々回調査
少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する	51.3	46.5	37.1	53.4	55.9	38.1
道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など高齢者が生活しやすいまちづくりを推進する	32.2	29.4	38.7	43.0	35.7	36.3
高齢者を地域で支える仕組みを整備する	36.4	44.3	42.1	36.3	45.1	43.9
認知症高齢者対策を充実する	33.0	26.3	20.5	33.7	30.9	26.3
住居の確保や、就労環境を整備する	18.1	24.8	29.7	20.0	20.9	29.4
高齢者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する	20.7	21.2	18.5	15.2	15.7	12.9
高齢者のための人権相談や電話相談を充実する	11.8	14.9	37.1	9.9	15.0	39.0
自己啓発や文化的活動に参加できる機会を十分確保する	8.1	7.5	12.1	8.1	7.5	10.4
その他	1.1	1.5	0.5	0.9	1.0	0.4
特になし	3.3	2.6	1.7	2.1	2.5	1.2
わからない	6.2	4.3	4.1	4.9	3.6	4.6

性別で見ると、男女ともに「少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する」の割合が最も高くなっている。また、「少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する」や「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など高齢者が生活しやすいまちづくりを推進する」などでは女性の割合が高く、「高齢者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する」や「高齢者のための人権相談や電話相談を充実する」などでは男性の割合が高くなっている。

前回、前々回調査と比較すると、「認知症高齢者対策を充実する」の割合は男女ともに増加してきている。また、前回調査より、女性では「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など高齢者が生活しやすいまちづくりを推進する」が、男性では「認知症高齢者対策を充実する」が最も割合が増加している。

表 5-9 高齢者の人権を守るために必要なこと【年齢別】 (%)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する	29.4	47.8	52.1	52.5	52.0	54.2	53.8
道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など高齢者が生活しやすいまちづくりを推進する	23.5	36.5	38.5	38.3	34.5	43.0	37.4
高齢者を地域で支える仕組みを整備する	29.4	38.3	37.9	36.0	37.7	41.3	30.3
認知症高齢者対策を充実する	17.6	40.9	30.2	32.2	38.1	37.4	27.0
住居の確保や、就労環境を整備する	23.5	18.3	29.0	28.4	24.6	17.0	7.1
高齢者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する	11.8	15.7	13.0	16.5	19.2	15.6	22.0
高齢者のための人権相談や電話相談を充実する	11.8	5.2	7.7	8.8	8.5	12.3	15.4
自己啓発や文化的活動に参加できる機会を十分確保する	0.0	7.0	8.3	8.8	7.5	8.4	8.3
その他	0.0	0.9	0.6	1.5	2.1	0.8	0.3
特になし	0.0	1.7	3.6	1.1	1.4	2.2	4.8
わからない	29.4	4.3	6.5	5.0	5.0	4.5	6.1

年齢別でみると、10歳代では「少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する」「高齢者を地域で支える仕組みを整備する」「わからない」が、そのほかの年齢層では「少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する」の割合が最も高くなっている。

また、20歳代の「認知症高齢者対策を充実する」や60歳代の「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など高齢者が生活しやすいまちづくりを推進する」と「高齢者を地域で支える仕組みを整備する」が高い割合となっている。

表 5-10 高齢者の人権を守るために必要なこと【職業別】 (%)

	農 林 漁 業	商 工 業	勤 め	職 員 、 公 務 員 及 び	医 療 関 係 者 及 び	教 育 ・ 福 祉	そ の 他 業 、 自 由 職	家 事 専 業	生 徒 ・ 学 生	無 職
少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する	56.0	59.1	54.7	46.3	54.7	54.7	35.0	51.4		
道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など高齢者が生活しやすいまちづくりを推進する	23.9	33.1	33.0	48.6	35.9	42.5	37.5	41.1		
高齢者を地域で支える仕組みを整備する	37.6	33.1	38.2	44.0	39.1	33.5	45.0	30.1		
認知症高齢者対策を充実する	25.7	27.6	36.3	37.5	25.0	35.8	37.5	31.4		
住居の確保や、就労環境を整備する	13.8	18.9	25.7	25.9	15.6	15.6	15.0	12.1		
高齢者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する	22.9	15.0	12.0	23.2	15.6	18.4	20.0	19.5		
高齢者のための人権相談や電話相談を充実する	15.6	16.5	9.0	6.9	6.3	12.8	5.0	12.9		
自己啓発や文化的活動に参加できる機会を十分確保する	2.8	12.6	7.3	9.3	4.7	6.7	5.0	9.5		
その他	1.8	1.6	0.7	1.9	1.6	1.1	0.0	0.3		
特にない	5.5	1.6	2.8	0.4	4.7	1.7	0.0	3.9		
わからない	7.3	4.7	5.2	1.5	6.3	6.1	12.5	6.7		

職業別でみると、『教育・福祉・医療関係者及び職員、公務員』では「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など高齢者が生活しやすいまちづくりを推進する」が、『生徒・学生』では「高齢者を地域で支える仕組みを整備する」が、その他の職業では「少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する」の割合が、それぞれ最も高くなっている。

また、『教育・福祉・医療関係者及び職員、公務員』の「少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する」と「高齢者を地域で支える仕組みを整備する」や『家事専業』と『無職』の「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など高齢者が生活しやすいまちづくりを推進する」が高い割合となっている。